

上海食品商談会開催！来場バイヤー数が過去最高に

洲澤 輝

2018年1月25日、上海市中心部にあるホテルオークラが運営する花園飯店にて、「上海食品商談会」を開催いたしました。今回で5回目を数える商談会には、広島県内の食品企業14社が参加。来場されたバイヤーは計62社（商談件数：170件）に上り、過去最高の来場者となりました。商談会当日は10年ぶりの大雪に見舞われ、豪雪注意報が発令され、バイヤーの来場も心配されましたが、熱心な商談が繰り広げられました。



＜バイヤー招へいー新しい手法の展開＞

これまで4回の商談会を行ってきましたが、今回バイヤーへの来場呼びかけ等にこれまでにない新しい手法を活用実施しました。その1つが、中国版のLINEと言われ、9.8億人のアクティブユーザーを有する巨大SNS「WeChat」による情報の発信等です。ひろしま産業振興機構では昨年11月からWeChat上での広島産品の紹介・商談行う「広島俯瞰・広島優良品コーナー」というアカウントを開設しております。今回の商談会においては、事前に参加企業及び出展商品の情報を配信し、併せて商談会への参加の募集を行いました。このアカウントには200名を超える食品の卸業者や小売業者、貿易会社や代理業者、飲食店等のバイヤーがお友達登録をしており、ダイレクトに情報を伝えることができることから、多くのバイヤーの参加につながったと考えています

また、商談会終了後には、このWeChatのチャット機能で個別にバイヤーにフォローアップを実施しておりますが、電話やメール以上に早く情報のやり取りができる有効なツールではないか感じています。

新しい手法の2つ目として、遠方からのバイヤーの招へいが挙げられます。これまでは上海および上海周辺の江蘇省や浙江省などからのバイヤーが大半でしたが、今回はこれに加え、北京市や大連市をはじめとする遼寧省各地域、海南島から8社のバイヤーが来場しました。日本食品の普及や販売ルートの状況も地域によって異なることから、遠方のバイヤーからは多くの情報を得られたとのことで、同様の商談会があれば、また参加したいとの要望も上がっております。

＜これからの日本食品＞

インターネットリサーチ企業であるiResearchは、2017年における輸入食品の消費者に関する調査報告を発表しています。上海や北京、広州や深圳といった約1,500人の調査対象者のうち、輸入食品消費者の年齢層は26～35歳が全体の6割以上を占めています。また、輸入食品消費者の収入が2万元/月を超える世帯は全体の5割となっています。経済力の向上に伴い、輸入食品の消費が増えていくことは容易に想像できます。さらに、子供がいる消費者は輸入食品の利用が高く、回答のうち9割以上となっています。日本食品は、やはり安全・安心の面で、ほかの国々よりも有利ではないか思います。そのなかでも豊富な食材が揃う広島県内の食品は、中国では人気の高い食品になるのではないのでしょうか。

産振構 WeChat
ID「guangdao_youpin」
またはQRコードで検索





还有2天！！1/25上海广岛食品商谈会

举办前夕！1/25上海广岛食品商谈会，衷心期待各位的光临。

2018/01/31 下午 4:43



1月25日 广岛食品洽谈会盛况空前！



广岛俯瞰

优良品

精彩无限